



DAIDO CAMPUS

No.88 2016.7



写真提供：アルバム委員会



大同大学
DAIDO UNIVERSITY



第51回大学祭(宴祭) “始動”～And to Legend～

5月28日(土)、29日(日)の2日間、大学祭が開催されました。今年のテーマは“始動”～And to Legend～。ご来場いただいたすべての方が楽しみ、笑顔で過ごせるようにと、大学祭実行委員会の学生を中心に、1年間準備してきました。当日は、学内だけでなく、学外からも団体が多く参加し、後夜祭では、3人組のユニット「WHITE JAM」のステージが行われ、最後まで大変盛り上がる大学祭となりました。



第51回大同大学宴祭 後夜祭



ミス大同 コンテスト

今回で第2回目となるミス大同コンテストでは、エントリーされた5名から来場者による投票が行われ、工学部 建築学科建築専攻4年の坂田有偉さんが見事グランプリに選ばれました！



グランプリ
建築専攻
坂田 有偉さん



準グランプリ
かおりデザイン専攻
木村 玲香さん



アピール賞
かおりデザイン専攻
新垣 香織さん



コスプレ賞
かおりデザイン専攻
藤井 菜奈さん



宴賞
かおりデザイン専攻
松浦 菜々美さん

写真提供：アルバム委員会



東海学生ハンドボール春季リーグ戦 男子が全勝優勝！ 女子は準優勝！ 男女とも西日本インカレに出場決定！ 男子は全日本インカレも出場権獲得！



東海学生ハンドボール春季リーグ戦で、見事、本学の男子ハンドボール部が全勝優勝、女子ハンドボール部が準優勝を飾りました！

男子ハンドボール部にとっては春季リーグの優勝は、2003 年以来 13 年振りの快挙。女子ハンドボール部は 2 年連続春季リーグ優勝を目指して臨みましたが、中京大学に 1 点差で敗退し惜しくも準優勝。この結果、男女とも西日本インカレへの出場権を獲得し、男子は全日本インカレへの出場権も獲得しました。

5 月 15 日(日)に本学の体育館で行われた試合では、大学関係者をはじめ、ハンドボール部 OB・OG や本学の吹奏楽団、保護者などたくさんの人が応援に駆けつけ、大変盛り上がる試合となりました。

また、男子ハンドボール部は中日新聞社に優勝報告を行い、その様子が 5 月 25 日(水)付中日スポーツ新聞、5 月 27 日(金)付中日新聞に掲載されました。

なお、西日本インカレは 7 月 8 日(金)から開催されます。引き続き応援をよろしくお願いいたします。



▲5月27日(金)付
中日新聞

吉田愛美さん(工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 4 年)

第 5 回 E&G DESIGN 学生デザイン大賞で特別賞を受賞！



▲審査員を務めた加藤和雄教授

「第 5 回 E&G (エクステリア & ガーデン) DESIGN 学生デザイン大賞」で、インテリアデザイン専攻 4 年の吉田愛美さんの作品「緑に囲まれたバス停～やすらぎの待合室～」が特別賞として中日新聞社賞を受賞しました。

「第 5 回 E&G DESIGN 学生デザイン大賞」は、5 月 13 日(金)、14 日(土)にポートメッセなごや 3 号館で開催された「第 7 回エクステリア&ガーデンフェア名古屋 2016」において、学生を対象として

企画されたもので、デザイン・コンペの審査員として加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)が参加いたしました。

「花・緑と生活のつながり-幸せ感あるエクステリア-」をテーマに、住空間、商業空間、公共・都市空間のエクステリアの分野で、住まい方や利用の仕方、身体面・心理面、省エネ・環境性等の要素と空間の関わり方を考えた空間デザインについての、学生の新鮮で独創的かつリアリティーある提案から、幸せ感のある生活、環境、空間創造の向上を目的としています。全国の大学、専門学校、高校から住宅部門、商業空間部門、公共部門において 70 作品ほどの応募がありました。

4 月 9 日に加藤教授らによる審査が行われ、最優秀賞、『住空間のエクステリア』、『商業空間のエクステリア』、『公共・都市空間のエクステリア』の 3 部門でそれぞれ優秀賞、特別賞などが選ばれました。また 5 月 14 日(土)には、ポート



▲中日新聞社賞を受賞した吉田愛美さん
メッセなごやにて、授賞式と最優秀賞・優秀賞受賞者による作品のプレゼンテーションが行われました。

桑原康将さん・稲垣孔一さん(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 横井健二研究室卒業生) JID 中日本エリア学生賞 2016 を受賞!



プロダクトデザイン専攻 横井研究室の、桑原康将さんと稲垣孔一さんが取り組んだ卒業研究の作品「ぶつくぶーぶ」が、JID 中日本エリ

ア学生賞 2016 を受賞しました。

公益社団法人日本インテリアデザイナー協会中日本エリアでは、21 世紀のインテリアデ

公益社団法人日本インテリアデザイナー協会のホームページ：<http://www.jid.or.jp/>

ザインの役割や将来性、社会貢献・若手の育成・協会の活動等の一般への周知等のため、独自の活動としてインテリア関連の学校・専門学校等に年一回各校に 1 名 (又は 1 作品連名) に対して「JID 中部学生賞」を授与する活動を行っています。

「ぶつくぶーぶ」は、病院での使用を想定した、子ども用のブックワゴンで、機能性に加え、トラックの形状や本のキャリアが動物であるなど、楽しさを感じさせるデザインであることが評価されました。

平手貴有記さん(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 横山弥生研究室4年) 本学バレーボール部のユニフォームをデザインしました

本学 プロダクトデザイン専攻 4 年 平手 貴有記さんが、本学バレーボール部のユニフォームをデザインしました。

ユニフォームのデザインはバレーボール部の山田雄太監督より横山研究室に依頼があり、実現しました。

ユニフォーム製作にあたり研究室内でコンペを開催し、10 個以上あるデザイン案の中からバレーボール部員に選ばれたのが平手さんのデザインでした。

大きさや色を変えた曲線を利用し、「さまざまな個性が集まって、一つのチームが成り立っている」ことを表現しています。

バレーボール部は今年度のリーグ戦からこのユニフォームを着て参戦しており、キャプテンを務めるバレーボール部 4 年 伊東さんも

「ユニフォームのコンセプトと今のチームの体制がぴったりだと思った。大切に使います。」と顔をほころばせていました。

また山田監督も「この素敵なユニフォームを着て、次の西日本インカレでも良い結果を残したい。」と意気込みを語りました。



廣瀬正幸さん(大学院 工学研究科 修士課程 都市環境デザイン学専攻 かおりデザインコース) 第 17 回空気調和・衛生工学会中部支部学術研究発表会で 優秀ポスター賞を受賞!

3月15日(火)、東桜会館にて、第17回空気調和・衛生工学会中部支部学術研究発表会が開催され、本学大学院の廣瀬正幸さん(工学研究科 修士課程 都市環境デザイン学専攻 かおりデザインコース)が優秀ポスター賞を受賞しました。

研究発表会には、さまざまな大学や企業から参加者が集まり、口頭発表で18組、ポスターセッションで14組が研究について発表しました。ポスターセッションは、前半の個別発表と後半の自由討論に区分されており、前後半合わせて4分間の発表。参加者はポスターを自由に見て

まわり、発表者はポスター前に常駐し、参加者への説明や質疑応答、討論を行います。廣瀬さんはポスターセッションで「レモンの香気成分における嗅覚特性の検討」を発表し、みごと優秀ポスター賞を受賞しました。

尾形和哉研究室(工学部 総合機械工学科)

「ロボカップジャパンオープン2016愛知」に出場！ また、「愛知工業大学学長賞」を受賞しました



3月25日(金)から27日(日)までの3日間、愛知工業大学・八草キャンパスで「ロボカップジャパンオープン 2016 愛知」が開催されました。ロボカップは、ラジコンのように人の操作に頼らず、自分で考えて動く自律移動型ロボットたちの競技会です。2050年までに、人間のワールドカップサッカー優勝チームに勝てる、自律移動のヒューマノイドロボットを完成させるという、壮大な目標を立てた研究者、企業、学生が集い、一般の方にも最新の成果を披露する場として、毎年開催されています。



その大会に、本学の尾形研究室から「DU-ST」チームが出場しました。チームリーダーは大学院1年の柳川洗哉さんと、競技種目は「中型ロボットリーグ」。縦横 50cm 未満のロボット 5 台でチームを構成して、18m×12m のとても大きなフィールドを駆け回ります。全方向を見渡せるカメラを載せており、自分とボールの位置をすばやく判断して動き回る迫力満点のリーグです。

年々、各チームのロボット性能が向上しており、今年の本学チームは、①全方位カメラに用

いるミラー形状の改良、②ボール保持機構(ドリブル機構)の改良、③キーパーロボットの整備性の向上および耐故障性の向上、④画像処理に必要な画素値に対する閾値の自動調整方法の採用、などをテーマ課題とし卒業研究の一環として取り組んできました。学生たちの努力の甲斐があつてどのテーマもサッカーロボットの性能向上に大いに貢献しました。

「DU-ST」チームは3位決定戦で延長の末敗れてしまいましたが、ロボットの動きは日を追って良くなり、技術課題では満足のいく結果が随所に得られました。

なお、試合とともに実施されたテクニカルチャレンジにおいて、「DU-ST」チームは「画像処理における2値化処理のための自動閾値設定法の開発」の発表をしました。これは4年生の竹内達哉さんが卒業研究として取り組んだテーマです。その発表内容が認められ、会場校から「愛知工業大学学長賞」を授与されました。

工学部 建築学科

3月29日(火)中日新聞でC-Scapeが紹介されました

3月29日(火)付の中日新聞で、工学部建築学科が2007年からイタリアのミラノ工科大と協力して実施しているアクティブラーニング「C-Scape」が紹介されました。

学生への課題は100年以上前の3階建ての建物を保存しながら、山間部の町を活性化する案を考えること。

記事では、学生がミラノ工科大の学生とメールやインターネット電話「スカイプ」でやりとりをし

て建物の外観や内部の様子などを調べ、プラスチックや発泡スチロールで100分の1の模型を作ったことや、発表した案について紹介されました。また、参加した建築学科3年の大野裕太郎さんは「海外の土地の歴史や社会情勢を学び、広い分野の知識が建築に必要だと気づいた」と話しました。

この記事は、中日新聞のWEBサイトでも「ウケる授業」として掲載されています。

こちらの URL より、ぜひご覧ください。 <http://edu.chunichi.co.jp/gakusei/?p=7016>



▲3月29日(火)付中日新聞

新刊紹介

『大槌発 未来へのグランドデザイン -震災復興と地域の自然・文化-』

共著: 鷲見哲也准教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻)

震災からの復興は、なにを大事にすべきなのか。壊滅的な打撃を受けた岩手県大槌町では、鷲見准教授が、被災直後から現在まで現地に通って津波や環境調査を続けており、一部公園等の計画・設計のアドバイザなどとして、復興途上のまちの様子を見守ってきました。鷲見准教授は共著者として「水文学からみた大槌の湧水」と題して第2章に寄稿しています。現地で豊かな湧水やそこに住む人や生き物の被災後の状況だけでなく、復興途上のこの5年の経過についてもまとめられています。

出版社: 昭和堂
発売日: 2016年03月
サイズ: 単行本
ページ数: 249
IS BN : 9784812215456
定価: 本体2,500円+税



山田靖教授(工学部 電気電子工学科)三浦大貴さん(大学院 工学研究科 電気・電子工学専攻)

第30回エレクトロニクス実装学会春季講演大会で講演・発表

3月22日(火)～24(木)に東京工業大学 大岡山キャンパスにて開催された、一般社団法人エレクトロニクス実装学会主催『第30回エレクトロニクス実装学会春季講演大会』で、山田教授が「高熱伝導グラファイトのパワー半導体モジュール放熱板への適用可能性」と題し、講演を行いました。

講演では、自動車の電動化が本格的な拡大期を迎え、それに伴い次世代パワー半導体である SiC や GaN デバイスの開発が盛んで

あることを背景に、次世代パワー半導体を用いるためにはパワー半導体の実装部に高い放熱性と信頼性が求められるとしました。それを踏まえ、次世代パワー半導体の実装部に利用できる放熱板として可能性がある高熱伝導グラファイトの評価について話がなされました。

また同大会の一般講演にて、三浦さんが「Cu ナノ粒子接合の信頼性に及ぼす熱膨張係数差の影響」と題して発表。

発表では、山田教授の講演に関連して、電動自動車に搭載する開発中の次世代パワー半導体の利点を実現するためには、半導体を基盤と接合するための接合材料に高い耐熱性と信頼性が求められるとし、三浦さんらが提案している Cu ナノ粒子接合技術はその求められる信頼性があることを踏まえ、Cu ナノ粒子接合技術が実際に使用する状況下での信頼性について話がなされました。

一般社団法人エレクトロニクス実装学会のホームページはこちら：<http://www.e-jisso.jp/index.html>

嶋田喜昭研究室(工学部 建築学科 土木・環境専攻)

笠松町のレンタサイクル社会実験を行いました

3月5日(火)から3月30日(木)まで行われた、笠松町のレンタサイクル社会実験に工学部 建築学科 土木・環境専攻の嶋田研究室の学生が協力しました。

笠松町では、町が持つ「歴史・文化・清流木曾川」の魅力を感じてもらうための取り組みとして、レンタサイクルの導入が計画され、「笠松町レンタサイクル社会実験運営協議会」に本学の嶋田喜昭教授が会長として任命されたことから、その社会実験に嶋田研究室の学生が取り組みました。

「笠松みなと公園」と笠松駅構内にある「ふらっと笠松」をサイクルポートとして社会実験が実施され、学生はその運営を担当しました。3人乗りのタンデム自転車や車いす自転車、電動アシスト付き自転車、幼児用自転車など様々な自転車の貸出しと、町内のお店で使えるお得なクーポンの

配布など、地域の方々と協力しながら行いました。

また、自転車についている GPS でどのようなルートを通ったのか、またアンケートの回答の統計を取ることで、社会実験での利用実態、利用者の要望を調査しました。

この調査結果から対応策を検討し、今後本格実施に向けて繰り返し行われる社会実験に生かされています。

加えて、「笠松町レンタサイクル社会実験運営協議会」に情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻の井藤隆志教授がオブザーバーとして任命され、本格実施で使用する自転車をデザインしました。コンセプトは「笠松の渡し舟」で「渡し舟」のモチーフを自転車のフレームに導入し、笠松町の歴史と魅力を盛り込んだデザインになっています。

井藤教授は、自転車だけでなく、今回実施され

たレンタサイクル社会実験のチラシ・パンフレット、のぼりなどの広報物や、運営を行うスタッフのジャンパーについてもデザインを担当しました。



杉本幸雄研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

大学プロモーションビデオ第3弾を制作・完成!

杉本研究室の学生が制作を進めていた、大学プロモーションビデオ第3弾が完成しました。

3月に本学で撮影が行われ、今回は、名古屋港水族館など学外の施設でも撮影が行われました。今までのプロモーションビデオとは一味違った、新たな大同大学の魅力が表現されたこのプロモーションビデオは、大学ホームページ内「一目でわかる大同大学 大学紹介ムービー」ページにてご覧いただけます。



こちらの URL より、ぜひご覧ください。<http://www.daido-it.ac.jp/gallery/index.html>

情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

展覧会「NEW IDEAS」を本学展示室にて開催しました



して行われています。今年の第三大学として本学が選ばれ、情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻の有志学生が作品制作に奮闘しました。

メダルというと半立体的でレリーフ状のかたちをしたものをイメージしますが、立体と平面双方の特徴を兼ね備え、「手の平の芸術」とも

5月9日(月)から5月26日(木)まで、本学展示室にて展覧会「NEW IDEAS」を開催しました。

「NEW IDEAS」は、アメリカ合衆国にあるフィラデルフィア芸術大学にメダル芸術を紹介する目的で、1998年から現在まで続いている珍しい展覧会です。

2001年、ポルトガルにあるリスボン大学がパートナーになり、以降毎年第三大学を招待

呼ばれています。メダルという概念を打ち破る自由な発想と制作者のこだわりが表現されることが重要で、小さな彫刻作品と言っても良いのかもしれません。

展覧会は各大学 12 人の学生から構成され、本学展示室での開催が春展示、NYの由緒ある「メディアリア画廊」での展示が夏展示、リスボン大学での展示が秋展示とリレー形式で行われます。

枡×アートプロジェクト(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

香港のギャラリーで枡×アートプロジェクトの作品が展示されました

2015年秋に本学の展示室で開催された「枡×アート展」、その中から選別された作品が3月31日まで香港のハーバーシティ内のギャラリーで展示されています。

プロダクトデザイン専攻が取り組んだ「枡×

アートプロジェクト」での作品は、本学展示室での展示だけでなく、ナディアパークで行われた同専攻の卒業制作展でも大好評。その上、海外で紹介され、「枡×アート」は今後とも大きな広がりを感じられそうな勢いです。



坪井涼准教授(工学部 機械工学科)

トライボロジー会議でセッションの座長を務めました

5月23日(月)～25日(水)に行われた、日本トライボロジー学会主催の「トライボロジー会議 2016 春」で坪井准教授が学術会議のセッションの座長を務めました。

坪井准教授が座長を務めたのは、5月24日(火)9:00～10:20「学術(流体潤滑3)」で、「往

復運動下におけるグリース EHL 油膜の挙動」、「衝撃運動下における点接触 EHL 膜の挙動」、「EHL 膜内への脂肪酸導入プロセスの in-situ 観察」、「弾性流体潤滑下での油膜形状とトラクション挙動の関係」の4テーマ。春と秋に開かれるトライボロジー会議では、多くのトライボロ

ジストが集まり、ホットな情報を入手する機会を提供しています。

全国の大学、研究所、企業の現場からの研究成果が発表、討議されると共に、トライボロジー 50 周年を記念して特別フォーラムも行われました。

平博仁特任教員(工学部 総合機械工学科)

溶接学会で溶接学術振興賞を受賞しました

4月12日(火)から14日(木)に開催された一般社団法人溶接学会 平成 28 年度春季全国大会で平特任教員が溶接学術振興賞を受賞しました。

溶接学会は、溶接・接合に関する研究の連絡を行い、学術技術の向上普及を図り、それによって文化の発展に寄与することを目的としています。

平特任教員は溶接・接合に関し、学術研究及び教育活動により、学術・技術の振興、進歩、発展に著しく貢献したと評価され、溶接学術振興賞の受賞に至りました。

加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

MESH環境デザインセミナーに進行役として参加しました

第 94 回 MESH 環境デザインセミナーに、加藤和雄教授が進行役として参加しました。

MESH環境デザインセミナーは、日本全国から著名な建築家、インテリアデザイナー、環境デザイナー等をお招きし、講演いただきそ

の後対談を行います。また中部地域の空間系デザイン学生に作品をプレゼンする機会を設け、著名なデザイナーとの交流をはかり学生のデザイン業界へのデビューを支援しています。



渡邊慎一教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

1月30日(土)NHK総合「データなび」に情報提供をしました



1月30日(土)21:00～放送された、NHK 総合「データなび そうだったのか!日

本の冬～データで探る“冬の未来”～に渡邊教授が情報を提供し、番組内で渡邊教授が行ったことについての研究成果が紹介されました。

「データなび」は、複数あるそれぞれのテーマについて、様々なデータから捉えていく番組。今回のテーマの一つは、冬の朝の部屋の室温について。室温が日

本で一番低い長野県の住民の寒さ対策について取り上げ、寒さ対策の工夫として、こたつが使われていることに着目しました。渡邊教授の研究で明らかになった、長野県の住民は一年間でこたつを使っている日数が日本で一番多いことや、こたつには室温の低さを補う大きな効果として、体感温度が室温に比べて最大で10度ほど高くなることが紹介されました。

岩橋尊嗣教授(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻)

愛知県立西尾高校「保健大会」で講演しました

3月10日(木)、愛知県立西尾高等学校で開催された保健大会で、岩橋教授が講演しました。

保健大会は、西尾高校の1、2年生が夏休みに取り組む研究課題の集大成の場であり、テーマが「西高生のニオイの本音～正しい対処法で爽やかになろう～」であったことから、岩橋教

授に講演依頼がありました。

講演では、生徒を交えて消臭の実験を行い、「におう」という現象の説明や鼻腔内の空気の流れ、体臭・口臭・加齢臭、洗濯や収納の工夫など多岐にわたって説明がなされました。また、「自宅でもできる消臭対策」「漬物と腐敗物のニオイの違い」など、生徒の質問にも丁寧に回答、

解説がなされました。

講演の最後には、日々努力する重要性について話し、「なぜ?どうして?」という疑問を持ち続けてほしいとエールを送りました。

西尾高校では引き続きトイレの臭いに関する研究課題へのチャレンジも予定されています。

中島貴光准教授(工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻)

「あらかわ創造舞台芸術祭2016」で舞台美術を担当しました



あらかわ舞台芸術創造プロジェクト「あらかわ創造舞台芸術祭2016」で中島准教授が舞台美術を担当しました。

このプロジェクトは、日本の伝統文化である「能」と西洋の文化である「オペラ」を、日本の美意識に基づき融合させ、舞台芸術を創造し荒川区から新しい文化として発信するというものです。

今年は「歌うということ 謡うということ」をテーマに、2日間講演しました。

第3部を飾った能×オペラ『羽衣』は、能「羽衣」の構成にオペラの歌とこの舞台のために作曲された音楽を注ぎ込み再構成されたもので、この舞台美術を中島准教授が担当しま

した。

本公演では、天女の羽衣を単に小道具としてだけでなく、物語の舞台である三保の松原の情景を再現する空間的な装置として扱っています。

中島准教授は「舞台上にたなびく「一枚の羽衣」は三保の松原と富士山、すなわちこちら側とあちら側を繋ぐ架け橋の役割を果たす。長閑な春の海のさざ波のような揺らめきが、能とオペラという対局もまた繋ぎ合わせてくれることを期待している。」とコメントしました。

田中秀和教授(情報学部 情報システム専攻 コンピュータサイエンス専攻)

日本技術士会中部本部主催の「倫理セミナー」で講師を務めました

3月19日(土)、名古屋学院大学日比野舎で開催された、日本技術士会中部本部主催「第8回倫理セミナー」で田中教授が講師を務めました。

日本技術士会が2010年3月に発刊した「技術士の倫理(改定新版)」を基本テキストにしたセミナーで、田中教授はこのテキストの著者の一人です。

セミナーでは、「米国における技術者倫理規程の史的展開」について、田中教授が著者として発表した原稿を元に、技術士の比屋根氏が解説を行いました。

その後、「APEC エンジニア等技術者国際資格の現状」について、田中教授がテキスト発刊以降の現状を主として解説しました。国際的に通用する技術者資格として認められて

いる、APEC エンジニア、IPEA 国際エンジニアについての概要と、2014年からスタートしたCITPという「認定情報技術者制度」についての、国際標準との適合性について解説しました。これは情報技術者限定の資格ではありますが、発足当初から「国際的に通用する」ということを謳い文句にしていたために取り上げて解説しました。

横井健二教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

4月28日(木)南陽高校で出前授業を行いました



4月28日(木)愛知県立南陽高等学校の2年生全員を対象に、昨年度に引き続き、横井教授が「意匠権」について出前授業を行いました。

この授業の目的は、半年間を掛けて6人1グループでデザインの提案をまとめていくもので、デザインの創作の仕方や手順などの学びと、最終的なデザイン案は意匠権として認められる権利であるという社会的な仕組みを学ぶ

こと。今回は、その第1回目の授業として、まず製品デザインとはどのような仕事か、どのような製品に携わっているのか、その手順はどのようにするのか、発想のコツはどのようなものか、そして最後に意匠権の仕組みについてなど、中身の濃い内容が話されました。

今後は生徒がグループとなって創作活動を進めていき、10月の下旬には発表会が行われる予定です。

大東憲二教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

4月11日(月)CBCテレビ「イッポウ」に出演しました



4月11日(月)、CBCテレビ「イッポウ」(月～金、16:52～19:00)に大東教授が出演しま

した。

番組ではリニア中央新幹線の開業に向けて、地上だけではなく地下でも開発が進んでいることを背景に、2015年12月に起こった地下の工事による歩道の陥没事故などを例とした、地下の開発のリスクについて取り上げました。

大東教授は、名古屋駅周辺の水位が昔は地下40メートルであったのが現在は5メートルまで上がっており、工事が地下水のリスクによって難

しくなっていることや、名古屋駅周辺の地層には水がたくさん含まれていることを解説しました。

また、リニア中央新幹線の開業に向けて、今までにない深さに線路をつくることで、そこに相当大きな水圧がかかることから、「その水圧に耐えられ、水が抜けない構造物をつくる必要がある」、また「地下の構造物は見えないけれど、安全に工事をしないと地面に影響が出てくる」と話しました。



男子ハンドボール部からU-24、U-21日本代表が選出！ 男女ハンドの監督も世界で活躍しています！



本学の男子ハンドボール部から3名の日本代表が選出されました。また、男子ハンドボール部の佐藤壮一郎監督が男子ジュニアアジア選手権の監督、女子ハンドボール部の齊藤慎太

郎監督が女子ジュニア世界選手権のコーチとして活躍しています。

男子ハンドボール部からは、U-24日本代表に経営情報専攻4年の原田一沙選手、U-21日本代表に経営情報専攻2年の原田竜汰選手・三重樹弥選手が選出されました。

原田一沙選手は昨年、佐藤監督とともにU-21日本代表としてブラジルに渡り、世界ジュニア選手権で自分と比べて体格が大きな相手にも怯むことなくシュートを決めるなど活躍してきました。そして昨年に引き続き、今年も日本代表としてU-24に選出され、6月26日(日)からスペインにて開催された世界学生選手権に出場しました。

原田竜汰選手・三重樹弥選手は、今回が初めての日本代表選出。本学の男子ハンドボール部 佐藤監督とともに7月22日(金)よりヨルダンで開催される男子ジュニア選手権に出場します。

本学のハンドボール部の活躍に大いに期待しています！みなさまも応援をよろしくお願いいたします。



オレゴン州立大学Ms.Juliannaが本学を表敬訪問 特別講演が行われました



▲表敬訪問の様子

5月17日(火)16:30からの30分間、本学B棟講義室にて、オレゴン州立大学の Ms. Julianna Betjemann (Director of Student Experience, Student Services INTO OSU)に



▲特別講演の様子

より特別講演が行われました。

この講演は、Ms.Juliannaの来日により、本学を表敬訪問されたことから急遽実現したもので、今年の夏に「海外事情1」のアメリカ短期

留学で実際にオレゴン州立大学に留学する、情報学部 総合情報学科 経営情報専攻の学生を対象に行われました。

講演は、すべて英語で行われ、オレゴン州立大学のこのみならずオレゴン州のことや、オレゴン州立大学があるコリーバス市の環境、施設、おすすめのスポットなどの紹介から、留学の際の過ごし方などの話がなされました。

講演の後は、できれば英語で質問をしてほしいとの Ms.Julianna の期待にこたえて、学生は英語をなるべく使おうという姿勢でさまざまな質問がなされました。

大同大学奨励賞 表彰式を行いました



3月16日(水)、学長室にて、大同大学奨励賞の表彰式が行われました。

奨励賞は、国際大会の出場、全国大会の入賞者、またはこれに準ずる成績をおさめた学生で所属クラブの顧問または監督が推薦する学生が対象となります。

今回は、ハンドボール部の原田一沙さん、ロボット研究部の横山真平さん、レーシングカート部代表の柴原耀介さんが表彰されました。

原田さんは、昨年度、第20回ジュニア世界選手権にU21日本代表選手として出場しました。小柄ながら世界の大型選手達と対等に渡り合い、日ごとに選ばれる優秀プレーのベスト5にもピックアップされるほどの活躍を見せました。今年度もU24日本代表に選出され、世界を舞台に活躍しました。

横山さんは、所属しているロボット研究部での活動において、1年生より種々のロボット大会に参加し、数々の非常に優秀な成績を収めてきました。日常においても、ロボット研究部の発展・活性化に多大なる貢献をしており、他の学生の模範となる活躍をしています。

レーシングカート部は、第20回全日本学生カート選手権に参戦し、他大学を圧倒する好成績

績で2年連続総合優勝を果たしました。工学系の大学が多く参加し、エントリー総台数95台の中、すべてのレースで好順位をキープできたことが、優勝につながりました。

表彰式では、澤岡学長、また各顧問の先生から、学生のそれぞれの活躍を称える話がなされました。学生からも、今後の抱負について話がなされ、これからの活躍に一層期待が高まります。

表彰者には賞状と、記念品として後日、楯が送られました。





新入生 オリエンテーション合宿を行いました



4月7日(木)～8日(金)と4月8日(金)～9日(土)に、静岡県浜松市で工学部 機械工学科、総合機械工学科、建築学科 建築専攻・インテリアデザイン専攻、情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻、プロダクトデザイン専攻、総合情報学科 経営情報専攻に入学した学生を対象に、新入生オリエンテーション合宿を行いました。このオリエンテーション合宿は、1泊2日の共同生活を通して、学生同士のコミュニケーションの向上や、今後の大学生活をより充実したものにするを目的として行われています。他己紹介やクイズ大会、宝探しなどを通して、初めは緊張していた学生

たちが徐々にお互い打ち解けていき、楽しんでいる様子が見られました。

これから4年間、多くの人たちと交流し、大学生活をより充実したものにしていきます。



写真提供：アルバム委員会

学生レポート!

無線研究会

木曽駒ゼミナーハウスに行ってきました!

僕たちは部活動の仲間 11人で、長野県の木曽にある自然や観光地に囲まれたロッジ風宿泊施設『木曽駒ゼミナーハウス』へ遊びに行ってきました。きっかけは学生室が企画している「スクールバス無料送迎キャンペーン」です。このキャンペーンで大学に宿泊施設があることを知り、行ってみようかと部内で盛り上がりました。

5月3日(火)、大学でスクールバスに乗り込み出発。ワイワイガヤガヤやっているうちに到

着。その日はとても気持ちの良い天気御嶽山が見え、桜もまだ残っていました。建物は傾斜地を利用した非常にユニークな構造になっており、駐車場から見た外観の小ぢんまりとした雰囲気と室内に入った瞬間に飛び込んでくる開放的な空間とのギャップに誰もが驚くはずでした。

持ち込み自由ということもあって今回はとにかく安くまとめようと、朝食のみの宿泊をチョイス。1人の料金はなんと2,040円。朝食はとても

ボリュームも美味しくて大満足でした!

次は部員の親睦をさらに深めるため、1年生の後輩たちも一緒に連れていき、観光やバーベキューで楽しみたいです。

皆さんも是非、大学の仲間やご家族と木曽駒ゼミナーハウスに行ってみてはいかがでしょうか。



■使用料と食費

利用者	使用料(1人1泊)	夕食(1人1食)	朝食(1人1食)
本学学生	1,500円	定食	540円
本学学生とその家族	2,600円	2,160円	
本学卒業生とその家族	3,650円	特別職	
小人(小・中学生)	1,500円	3,100円	
本学教職員	2,600円	バーベキュー(夏季のみ)	
その他	4,500円	1,080円	

■木曽駒ゼミナーハウスに関するお問い合わせ

大同大学 学生室 TEL052-612-6260

人事

採用 【大学】 <教育職員> (H28.7.1) 西脇 武志 工学部機械工学科 教授